

令和6年度富山県（富山市）地域社会合気道指導者研修会

開催期間：令和6年10月19日（土）～20日（日）

会 場：県営富山武道

派遣講師：金澤 威 七段、中村仁美 四段

地元講師：島 恵司 七段、上島政則 六段

参 加 者：35 名



県営富山武道館

中学校保健体育科授業における合気道の外部指導者および補助者に必要な技術ならびに指導力の向上を図る。

はじめに金澤講師が「道場での指導と授業での指導は異なるということを認識してください。合気道を通じて子どもの成長をどのようにサポートしていくかが大事になってきます。今後、授業を行う際に、今回の研修で学んだことを活かして授業を行えるようにしていただきたいと思います」と述べ、授業で指導するにあたっての心構えを説いた。準備運動後、研修1『礼法～初めての合気道（合気道を楽しく）～礼』として、初めて合気道を学ぶ生徒を想定した



授業指導への心構えを説く金澤講師（中央）

指導が行われた。金澤威講師は他武道と合気道の違いについて、試合がないことの利点、受身を取る際にどのような意識で行うかなど、参加者に問いかけ、考えさせながら進めた。礼法については「まずは姿勢を正して相手に敬意を示すこと。また、相手を尊重することを伝えていただきたい」と説明した。

つづいて、受身の取り方、角落しについて順序立てた指導方法を教示した。金澤講師は「運動が苦手な子でも達成感、満足感を感じさせるようにすることが大事。それと同時にできる子はすぐにできてしま



示範しながら指導する金澤講師（左端）

まうので飽きさせないように工夫すること」と述べ、生徒への気遣いの重要性を説いた。最後に金澤講師は自身の失敗談を交えながら「授業後には合気道をやった楽しかったと感じてもらえるようになれば良いと思います」とした。

研修2『中学校での体験授業を振り返って（計画の立て方 PDCA）』では、地元講師の島恵司講師（富山県合気道連盟理事長）が自身の中学校での指導体験を踏まえながら授業の進め方を示した。島講師は「前後左右の人同士がぶつからないように注意する。特に頭をぶつけないようにする」などの注意点や「投げる時は『1・2の3』で投げる」「休憩前に子どもたちが興味を持つような技をやってみる」など自身が授業を進める上で工夫した点について説明した。



体さばきを示範する島講師（左端）



二人一組となって受身の練習

研修3『中学校の部活や地域社会での合気道（指導法）』は、地元講師の上島政則講師（富山県合気道連盟理事）が指導。呼吸法、入身投げ、一教、二教、回転投げなど技術的指導を行った。上島講師からは技ごとにポイントの説明がなされた。参加者は汗だくになりながら熱心に一つひとつの技に取り組んだ。



小手返しを示範する金澤講師（左）

研修4『総合練習』では金澤講師と中村仁美講師が指導した。まず角落しを復習し、その後、金澤講師の指導で小手返しを号令に沿って行った。つづいて中村講師が四方投げの指導を行った。これも1挙動ずつ号令に沿いながら、ゆっくりと確実に行った。金澤講師からは「教える側がすべて答えを教えるのではなく、子どもたちに考えさせることが大事」との説明があった。その後、金澤講師が注意点を説明しながら角落し、小手返し、四方投げ、呼吸法の四つの技を号令に沿って行った。最後に金澤講師から「最初の礼はお願いします、終わりの礼はありがとうございましたの気持ちを持つことを忘れずに」との説明があった。



四方投げを示範する中村講師（左）